

退任挨拶

退任に当たって 浅沼修一

2005年4月から10年間、国際教育協力にかかわる様々なことに係ってきました。初めは、何をやるか自ら探し求める日々が続きましたが、あっという間に農国センターを自分たちで作って行こうというセンター長、教員や事務職員の熱い思いに飲込まれ、知らず知らずのうちに土日のない生活になっていきました。農水省の競争的資金にチャレンジするときは、素敵なアイデアをどうやって実行するか悩んでい



ましたが、一人でなくみんなでやればできると背中を押してくれたのが当時の竹谷センター長はじめ同僚の教員たちでした。それから5年間“日本のノウハウを日本人の手でアフリカへ”のスローガンを掲げ、海外で研究している日本人の元にアフリカの若い人材を招聘して研修を行う事業は、農国センターが国際的な認知を得ることに貢献できたと思っています。農国センターには、オープンフォーラムやオープンセミナーなど独自のユニークな活動がありますが、それらを通して新たな出会いや人とのつながりになっていきました。アセットとして次につなげて行きたいと思っています。農国センターが時代の波の中でおもねることなくそのユニークネスを活かした研究教育を続けていくことを期待しています。この10年間にご協力ご支援をいただいた学内外のみなさま、絶えずフレッシュな感覚で議論できた学生のみなさんにこの場を借りてお礼を申し上げます。

着任挨拶

江原 宏 協力ネットワーク開発研究領域 教授

2015年10月1日付で協力ネットワーク開発研究領域の教授に着任いたしました。これまで、栽培生理、熱帯農学の専門家として、貧栄養、塩害、酸性土壌、洪水といった厳しい環境条件に対する作物および資源植物の形態形成、生理反応に関する研究を行ってきました。東南アジアではタイなどの半島部、インドネシアなどの島嶼部、ミクロネシア、メラネシアのパプアニューギニア、バヌアツ、フィジー、ポリネシアのサモア、アフリカではタンザニア等をフィールドとして、国際共同研究や国際協力に携わってきました。近年は、農林水産技術会議地球規模課題国際研究ネットワーク事業による「食料安全保障強化に向けたサゴヤシ澱粉の持続生産と利活用に関する戦略的総合研究プログラム」、科研費による「大洋州を中心としたサゴ属ヤシ資源のインベントリー研究」、「アジアの洪水常襲地に適した持続的作物栽培体系の開発」、日本学術振興会や科学技術振興機構等の支援による若手研究者育成事業などに取り組んできました。これらの経験や人的なネットワークを生かし、本学の基本方針に沿って、農学領域の開発問題を実践的に解決する人材を育成するという当センターの設立理念に従い、自発性を重視し、高い専門性に裏付けられた実践的技術の研究と開発、それをベースとする教育、国際協力活動を推し進めたいと考えています。



略歴 1962年生れ。1985年日本大学農獣医学部卒業、1987年岡山大学大学院農学研究科修了、1990年同大学院自然科学研究科単位取得退学。1991年に学術博士（岡山大学）取得、三重大学生物資源学部助手に採用され、日本学術振興会特定国派遣研究者（英国王立キュー植物園、三重大学助教授、同大学院教授、学長補佐（国際交流担当）、副学長（国際担当）などを経て、2015年10月より現職。